答辞

桜のつぼみも膨らみ始め、春の訪れを感じるこのよき日に、私たちは卒業を迎えました。
本日は、このような温かな卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。
新たな学びの場で始まる中学校生活に期待を感じた入学式から３年が経ちました。
１４人のなかまで歩んできた中学校生活は思い出であふれかえっています。
中学校は、校舎が隣にあることもあり、小学校の頃から身近に感じていましたが、「５０分授業」、「新しい教科」、「朝のランニング」などへの戸惑いや、中学生という立場へのプレッシャー、不安もありました。
その不安を乗り越えることができたのは、先輩方の存在のおかげでした。
私たちの不安や疑問に気づき、どんなにいそがしくても、優しく声をかけ、教えてくださいました。
そんな先輩方の姿が輝いて見え、憧れを感じ、前に踏み出すことができました。
１年生は「出会い」の年でした。中学校の先生方や先輩方との出会い。
なかまとの出会い直し。
そして、宮古島の結の橋学園との交流で生まれた出会いは、貴重な体験となりました。
宮古島に到着した時の私たちは、緊張と不安で笑顔が消え、体がうまく動きませんでした。
しかし、目標である「勇気は一瞬、後悔は一生」を思い出し、勇気を出して一歩踏み出しました。
交流会が終わる頃には、みんな涙ぐんで別れを惜しみましたが、同時に無事に交流を終えて、笑顔があふれる姿がありました。
人と人との繋がり、一期一会のすばらしさを身にしみて感じることができました。
２年生は「リーダーとしての意識が変化した年」でした。
コロナ禍で地域行事が中止となる中、企画した「かほくふれあいデー」。
３年生が全体の企画運営を行い、成功に導かれる姿は、目指すリーダー像を描くことができました。
同時に、自分たちにできるのだろうかという不安も生まれました。
そして、沖縄から山口方面に変更された修学旅行。
そこで訪れた萩市は、日本の多くのリーダーの方々の故郷（ふるさと）として有名な町でした。
史跡をめぐり、その当時のリーダーたちの思いや信念を感じ、これからどのように学校を引っ張っていくのか？自分の行動をどう変えていくのか？など、あらためて考えました。
勇気を持って踏み出すきっかけになりました。
期待を胸に迎えた３年生。
学校の中心として実際に動き出すと、これまでの先輩方の姿が大きな壁として立ちふさがりました。
焦りで空回りすることもありました。
そんな自分を嫌になることもありました。
しかし、なかまや先生方など、多くの支えにより、少しずつ自分に自信がつき、積極的

にＴｒｙして変わることができました。
　そして、「地域、小学校、保育園と協力してできる活動はないか」と考え、すべて自分たちで創り出した芸術の森。
　これはできるか？本当に間に合うのか？と一つ一つの課題について議論し、準備した時間はすべて宝物です。
　紆余曲折（うよきょくせいつ）したことも含め、たくさんのことを学びました。
　当日来られた皆さんの笑顔を見られたこと、「ゼロ」から「１」を生み出す経験ができたことは、決して忘れません。
　これまでを振り返ってみると、今の私たちがあるのは、たくさんの方々の支えがあったことに気づかされます。
　３年間を共にした１４人のなかま。
　辛くくじけそうな時でも、なかまがいたから乗り越えることができました。
　これから先は、別々の道を歩みますが、本当は、これからも一緒にいたいという思いでいっぱいです。
　しかし、進路は違っても心は一つです。
　本当にありがとう。
　在校生の皆さん。皆さんがいたから自分を見直し、行動を変えることができました。
　私はみなさんに、これからも挑戦を止めないでほしいと思っています。
　皆さんにもなかまや先生方、家族の支えがあります。
　自分たちにしかつくれない鹿北中を目指して頑張ってください。
　先生方には、感謝してもしきれないくらいに様々なことを教えていただきました。
　私たちが分かりやすいように、そして、興味を持てるように様々な工夫をされて授業をしてくださいました。
　また、委員会や部活動で、自分たちが誤った方向に進もうとしたら必ず熱心に指導してくださったり、悩みや相談にも一人ひとりにしっかり寄り添って、私たち目線で考えてくださいました。
　そのような先生方の学びを大切に、これからも行動していきます。
　ありがとうございました。
　最後に、これまで育ててくれたお父さん、お母さん。
　反抗してもけんかしても、決して見放さずに温かく見守ってくれました。
　今まで安心して過ごしてこれたのは、お父さん、お母さんのおかげです。
　今まで本当にありがとう。
　そして、これからもよろしくお願いします。
　これからも私たちは、この鹿北中学校の卒業生であることを誇りに思い、鹿北中学校がますます発展し続けることを願い答辞といたします。

令和４年３月５日
卒業生代表